

(不特定多数の者を対象とする研修 [第1号研修及び第2号研修])

実地研修評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおり実施できている。
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(実施後に指導した。)
	ウ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。(見過ごせないレベルであり、その場で指導した。)
	エ 1人での実施を任せられるレベルにはない。

指導看護師 氏名	
受講者氏名	
本票ページ数	/

回数	※( )内に実施研修の実施回数を記入すること		(1)回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	
月日	※実施研修を実施した月日を記入すること		10/11	/	/	/	/	/	
時間	※実施研修を実施した時刻を記入すること		13:15						
実施手順	評価項目		評価結果	評価結果					
STEP:4 準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア						
	2	手洗いをを行う	ア						
	3	必要な物品を準備する	ア						
	4	指示された栄養剤(流動食)の種類・量・時間を確認する	ア						
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6	準備した栄養剤(流動食)を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア						
STEP:5 実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8	注入する栄養剤(流動食)が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア						
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	経管 栄養 の実 施	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア					
		11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
		12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア					
		13	注入物の滴下の状態を観察する	ア					
		14	挿入部からの栄養剤(流動食)のもれを確認する。	ア					
		15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア					
		16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
17	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア							
STEP:6 報告	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア						
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア						
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	—						
STEP:7 片づけ	21	環境を汚染させないように使用物品を速やかに片づける	ア						
STEP:8 記録	22	実施記録を記載する	ア						
アの個数 計			21						

自由記載欄 ※指導内容について、裏面評価項目の「評価の視点」の細目レベルで記載してください。

例(1)回目	合格
( )回目	
( )回目	
( )回目	
( )回目	
( )回目	